



2024年2月14日

各位

会社名 株式会社モンスターラボホールディングス
代表者名 代表取締役社長 鮎川 宏樹
(コード: 5255、グロース市場)
問合せ先 取締役副社長CFO 中原 淳博
(TEL. 03-4455-7243)

業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2023年12月期(2023年1月1日~2023年12月31日)において、2023年8月14日に公表しました業績予想数値と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 2023年12月期(2023年1月1日~2023年12月31日) 通期業績予想(連結)と実績との差異
(単位: 百万円)

	売上収益	営業利益又は営業損失	税引前利益又は税引前損失	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想(A)	14,273	△1,255	△783	△968	△28.67
実績(B)	13,346	△2,056	△2,156	△2,355	△70.07
増減額(B-A)	△926	△801	△1,373	△1,386	-
増減率(%)	△6.5%	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (2022年12月期)	14,270	△389	△447	△674	△24.51

※前回発表予想(A)は142円/米ドルレートを前提としており、実績(B)は140円/米ドルレートを前提としております。

※前回発表予想(A)は、2023年8月14日に公表した数値です。

2. 差異の理由

売上収益につきましては、地域別ではAPACやAMERは概ね想定通りに推移したものの、EMEAにおいて、案件の大型化に伴う顧客側の決裁プロセスの長期化及び顧客の慎重な投資姿勢により、長期大型案件の一部で期ずれや失注が生じた影響から、EMEAの売上実績値(5,046百万円)はEMEAの前回売上予想値(5,935百万円)を888百万円下回りました。そのため、連結売上収益は前回公表値を下回ることとなりました。

利益につきましては、連結子会社であるECAP DMCCの株式の一部を譲渡したことで(2023年12月20日付開示「連結子会社の持分法適用関連会社への異動に関するお知らせ」を参照)、関係会社株式の売却損益及び持分法による投資損益である194百万円をその他収益として計上いたしましたが、売上収益が想定よりも下がった影響に加え、構造改革費用を当第4四半期連結会計期間にも249百万円計上したことから前回公表値を下回りました。構造改革は当第3四半期連結会計期間に完了する予定でしたが、EMEAやAMERを対象とした人員削減において、受注案件への影響を考慮して計画の

一部が遅れた結果、完了時期が当第4四半期連結会計期間まで延びることとなり、その影響から追加費用が生じました。

また、税引前損失及び親会社の所有者に帰属する当期利益につきましては、当社が海外子会社（主にEMEA）に対して有する子会社貸付金（海外子会社側での外貨建親会社借入金）の取引残高が増加したことに加え、12月末に生じた為替変動によって円高となった影響で当第4四半期会計期間において為替差損671百万円を金融費用として計上いたしました。その結果、2023年8月14日付の「金融収益（為替差益）」計上に関するお知らせにおける為替差益633百万円が減少し、通期では為替差損8百万円の計上となり、前回公表値を下回りました。

なお、ECAP DMCCの株式の一部譲渡によるその他収益の計上の詳細につきましては、本日公表の「その他の収益」計上に関するお知らせをご参照ください。

以上